

**Q4： キャリア・パスポートを効果的に活用する方法を教えてください。**

A： キャリア・パスポートは、児童生徒が自分の成長を自分で振り返ったり、自分のよさ、可能性を認識したりするための道具である。例えば、キャリア・パスポートに蓄積されたワークシート（記録用紙）を活用して、年度当初に学級活動（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」アの授業で、昨年度の学校生活や学習などを振り返り、自己の成長に気付くとともに、新たな学習や生活の目標を立てる際に生かすことが考えられる。

【「キャリア・パスポート」の定義】学習指導要領及び学習指導要領解説特別活動編（H29,30年告示）

児童生徒が、小学校から高校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。

## 1 目的

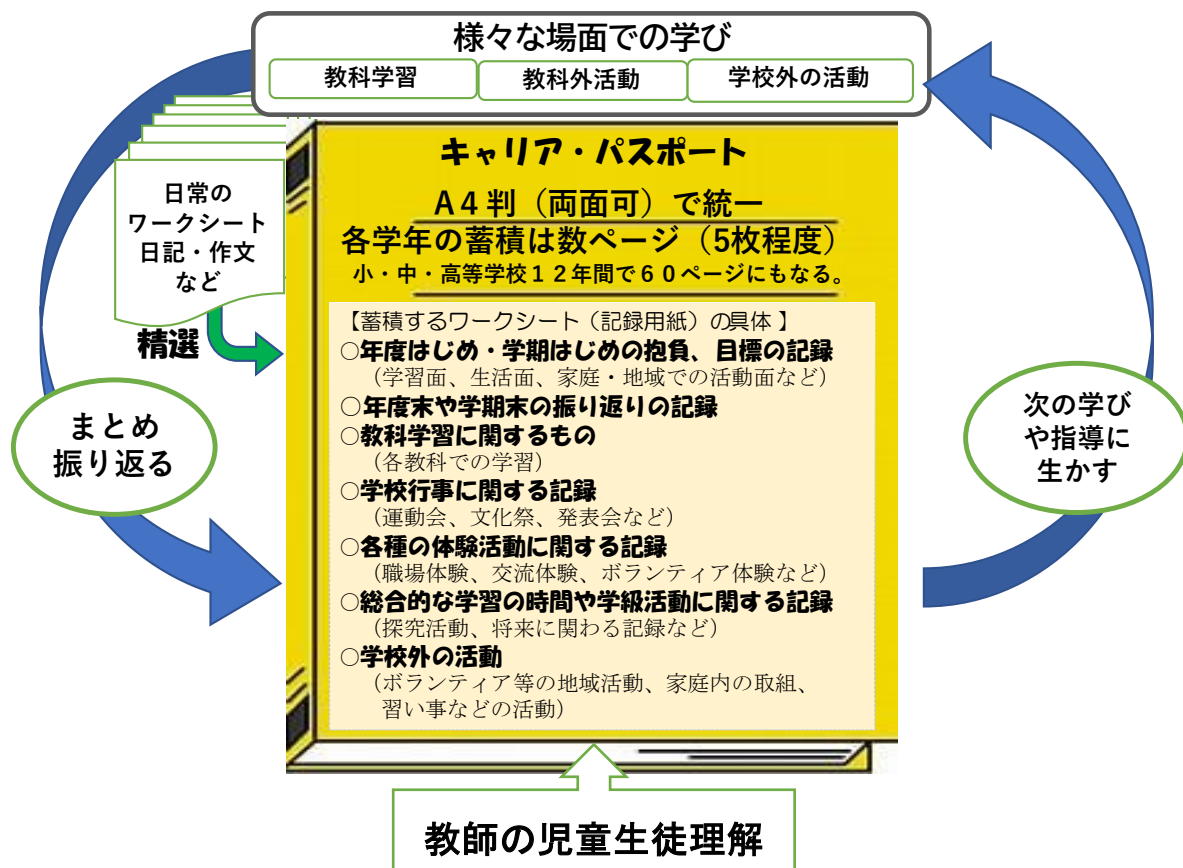
小学校から高等学校を通じて、

- ① 児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながるもの。
- ② 教師にとっては、その記述を基に対話的に関わることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

小学校から高等学校まで、その後の進路も含め、学校段階を越えて活用できるものとし、教育活動、職種、人を「つなぐ」、「学びをつなぐ」教材となつて、キャリア教育の充実が期待されている。

## 2 内容

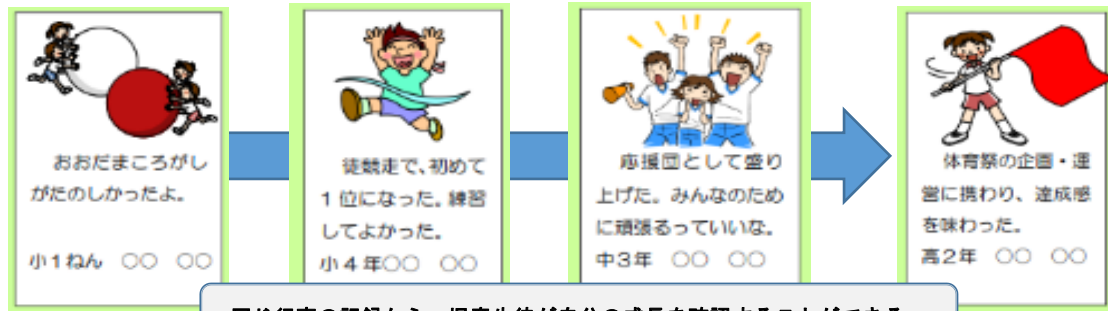
児童生徒が自ら記録し、振り返るとともに入学から卒業までの学習を見通し、将来の展望を図れるものとする。また、児童生徒が自己有用感の醸成や自己変容の自覚に結び付けられるように、大人（家族や教師、地域住民等）が対話的に関わり、肯定的なコメントを記入することが大切である。日常のワークシート（日記、作文、各教科等）を活用しながら、地域や学校の実態に合わせて、カスタマイズしていくのもよい。



### 3 活用

#### (1) 場面

- ア 年度はじめ、学期はじめの目標立てや、学期末や年度末の振り返りをする場面  
 イ 学校行事（運動会、文化祭、発表会など）の目標立てや振り返りをする場面  
 <運動会・体育祭の記録 例>



同じ行事の記録から、児童生徒が自分の成長を確認することができる。

#### ウ 教科等の場面

例 (◎ねらい ・主な学習活動)

##### 【生活】小学校 2 学年「学校を案内しよう」

- ◎自分の役割を自覚し、主体的に取り組むことができる。  
 ・1年生に学校のことを伝え、進級して上級生になった自覚をもつ。

##### 【道徳】小学校 4 学年「いつかにじをかける」

- ◎自分で立てた目標に向かって、粘り強くやり遂げようとする態度を育む。  
 ・マラソン選手について知る。  
 ・夢や目標の実現について話し合う。

##### 【図画工作】小学校 6 学年「十年後の私」

- ◎友達の作品のよさを味わうことを通して、自分が思い描く未来の姿を見つめ直すことができる。  
 ・未来のある日の自分の姿を想像して立体で表した作品を作り、鑑賞し合う。

##### 【総合的な学習の時間】中学校 1 学年「働く人から学ぼう」

- ◎働くことの大切さを知り、将来について考えることができる。  
 ・身近な人の働く姿を知る。  
 ・地域の職業人の話を聞く。

##### 【社会】中学校 3 学年「労働環境の変化と課題」

- ◎現代の労働者を取り巻く問題点について理解し、将来の自分の生き方を考えることができる。  
 ・日本の労働環境の変化と雇用形態の特徴を知り、その問題点について考える。

##### 【英語】中学校 2 学年「My Dream」

- ◎将来の夢や目標と結びつけながら、学ぶことや日常生活を送ることの意義を自覚し、見通しをもって努力することができる。  
 ・自分の将来の目標や、その目標に近づくために自分がやるべきことについて考える。

#### (2) 留意点

##### ア 記録や蓄積が、学級活動に偏らないようにする。

学級活動以外の教科や学校行事、帰りの会等の際に記録することも考えられる。

学級活動で扱う際、学級活動の目標や内容に即したものにし、積極的に記録を用いて話し合い、意思決定を行うなどの学習機会の確保に努める。 学習指導要領解説特別活動編を確認し、その内容及び実施時間数にふさわしいものとする。

##### イ 「キャリア・パスポート」は学習活動であることに留意する。

児童生徒個々の状況を踏まえ、本人の意思と反する記録を強いたり、無理な対話に結び付けたりすることは望ましくない。「キャリア・パスポート」は自己評価、学習活動であり、そのまま学習評価とすることは適切ではない。

##### ウ 個人情報であることに留意する。

安易に掲示したり、学校が発行する通信等に掲載したりすることがないように配慮する。管理は、原則、学校が行い、記録の紛失・流失に十分注意すること。進級時の学年間の引継ぎは、原則、教師間で、進学時の引継ぎは、原則、児童生徒を通じて行うが、小・中学校間は学校間で行うことが考えられる。

##### 【参考資料】

- |  |            |
|--|------------|
| ・「キャリア・パスポート」の導入に向けて～小・中・高の学びをつなぐキャリア教育充実のために～ | R02. 1 県教委 |
| ・「キャリア・パスポート」例示資料等について                         | H31. 3 文科省 |
| ・「小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 特別活動編」                 | H29. 7 文科省 |
| ・「中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 特別活動編」                 | H29. 7 文科省 |

